

ラブライブ！ ことばな公開録音ラジオ劇場 『愛を米とチーズケーキに込めて』 第二回 スクフェス AC 稼働半年記念

著：水天宮パルス (yunohana-pulse)

※ ※

花陽「ところで、ことりちゃん。これは最近巷で聞いた噂なのですが」

ことり「はい、どんな噂なのでしょうっか」

花陽「秋葉原のとあるゲームセンターにあの伝説のメイド、ミナリ（ピー）さんが出没するらしいですっ」

ことり「へ、へー、そ、そーなんだあ……」

花陽「曜日時間帯は不定期だそうですが。颯爽とメイド服で現れては、『スクールアイドルフェスティバル~after school ACTIVITY』略して『スクフェス AC』をプレイしていくそうです！」

ことり「……ふ、ふーん……」

花陽「集中型5クレで！ 『sweet&sweet holiday』がお気に入り、challenge もこなすぐらいの腕前だそうです。とても楽しんでいるみたいで、その姿があまりに可憐なことから、ミナ（ピー）キーさんの人気はまたうなぎ登りに……。ただこれも噂ですが、メイドカフェの宣伝的な意味合いでの陰謀論も……」

ことり「あのね、かよちゃん」

花陽「はい、どうしましたか、ことりちゃん？」

ことり「これも噂なのですが、ミナ（ピー）スキーさんは、全然みんなの注目を浴びているのに気付いていなかったそうなのですよ……」

花陽「ええっ！ そうだったのお！？」

ことり「タイムリミットは60分、とりあえずマカロンでおなかを膨らませた後に、ゲームセンターまでやんやんダッシュ！」

花陽「遅れそうです！」

ことり「両替はあらかじめしておくにしても、プレイする時間は限られていますっ」

花陽「しかも台を待っている人がいるっ！」

ことり「それはプレイ後に確認をするのですが、なぜかスマホしてるからいいですよっ、的な雰囲気の人だらけで、いつも大丈夫、という噂が……」

花陽「それ譲られていますよ！ 間違いなくっ！」

ことり「ともかく真剣勝負すぎて……。あ、でもでもっ。なんかたくさん人が見ていた気がしたっ！　いましてきましたっ！」

花陽「て、天然すぎますっ！　まさにアイドル！　伝説のメイドですっ！」

ことり「拍手喝采だった気もしてきましたっ！　やんやん！（///）」

花陽「うーん、なぜこと……もとい、ミナリ（ピー）キーさんが頂点に登り詰めたのか、私分かった気がします……」

※ ※

花陽「というわけで、始まってから随分経っていました！　『愛を米とチーズケーキに込めて　無言のアンコール 第二回』。お相手は『ご飯にしますか？』小泉花陽とっ！」

ことり「『お風呂にしますか？』南ことりですっ！　あなたを癒やしてあげたいっ！　今日もよろしくお願ひしますっ！」

花陽「巷の噂から始まっちゃいましたが、アーケード稼働から半年が経っていますね！」

ことり「うん、そうだねっ！　でも、本来は稼働記念というタイミングですべきだったんじゃないかなーって」

花陽「それをパーソナリティがイチャウ!?　いえいえ、実は意味があつてのことなのです」

ことり「おお、かよちゃん、なんか意味ありげだよお！」

花陽「はい。μ'sのアキバドームのファイナルライブからもう一年以上……。それでも、μ'sの灯りはまだ消えない……」

ことり「かよちゃん……」

花陽「みんながまだμ'sのことを覚えてくれているんだなーって実感してたりします」

ことり「ことりもかよちゃんも、そしてみんなもっ！　まだまだ元気に活動していますっ♡」

花陽「わいわいとμ'sの楽曲でシャンシャンして」

ことり「カードコレクションをしたりっ！」

花陽「プロフィールカードを知り合った人と交換したりして！」

ことり「楽しんでもらえたら、ことりは嬉しいですっ！」

花陽「うん、これがね、始まってから半年経ってくると、とても重みがあるっていうか……」

ことり「重み……」

花陽「はい。いずれかはね。悲しいことだけど……お別れの日が来ちゃうとは思っています」

ことり「それでもっ」

花陽「いまそうやって楽しんでいる瞬間すべてが、いつまでも記憶に残り続けてくれれば」

ことり「私たちの願いは叶ったね！ って、胸を張ってμ'sは……μ'sは……」

花陽「言えるのです……。って、ことりちゃん……」

ことり「えへっ、ちょっと泣いちゃった」

花陽「ハッピークラッカーでHR透視が出たのに、実際引いてみたら、そもそもHRなんてなかったよ！」

ことり「と、突然、かよちゃんから生々しい声がつ！」

花陽「新規追加衣装確率アップ、仕事してよお！」

ことり「『スクールユニティ』とか、嬉しいけど初期衣装だよお！」

花陽「楽曲投票するのはいいけど、後にでもいいので全曲追加してくださいよ！ ノーブラとか！」

ことり「切実すぎるっ！ ノーブラは切実すぎるよっ！」

花陽「はっ！ なんか凜ちゃんに、また『こっちのかよちゃんも大好きだニャ！』って言われた気がします！」

ことり「かよちゃん……。ことりも、そんなかよちゃんが大好きです♡ あ、ちょっとCMですっ！」

※ ※

(スクフェスACゼツサカトウチュー)

※ ※

花陽「はい。それでは、質問コーナー『ことばなが斬る！』です。前回見事に誤字っていましたが、この表記が正しいです。ごめんなさい」

ことり「しかも、なんか『質問』じゃなくって『人生相談』っぽくなってると、視聴者様の声がつ」

花陽「もう何でも答えちゃいますよ！ 一応テーマは、今日お話をしてきた『スクフェスAC』となっています。ことりちゃん、お願いします！」

ことり「はいっ、ラジオネーム『ラストインジエルニー 高3』さん。『妹、弟と一緒に欠かさず聴いています。『輝夜の城で踊りたい』のフィナーレタイムのラスト、とんでもなくかわいい上目遣いにこちゃんがアップになって、ドキドキが止まりません。ニヤニヤしてもバレないように、マスクは必要でしょうか？」

花陽「いきなりマニアックなの来ました！ そして分かります！ あのこちゃんは確かにかわいい！」

ことり「うんうん、かわいいを追求するのもスクフェス AC の楽しみですねっ！ ことりはぜひニヤニヤして欲しいですが、どうしても気になるなら、マスクとサングラス、ソフトクリーム状の帽子をかぶりましょう！ 次は……ラジオネーム『ウミ 高2』さんです。『ことりさん、花陽さん、いつもラジオをご拝聴させて頂いております。ダイエットのつもりでスクールアイドルの友人をプレイに誘いましたところ、思わぬ上達ぶりで驚いており m」

花陽「ことりちゃん？」

ことり「あ、うーんとね。途中送信しちゃったのかな？ ここで終わってるの。ウミさん、慌てていたのかなあ」

花陽「それなのに、採用ｷｯｯｯ!!? え、えーっと……。正直、ダイエットは耳が痛い話です……」

ことり「かよちゃん、ここはね。後半にツッコミいれるのどうかな？ スクールアイドルの友人が思わぬ上達ぶりってところ。スクールアイドル活動しているうちに、自然とリズムが取れるようになって、リズムゲームも上達してたってことだと、ことりは思うのです」

花陽「なるほど、うう、でも私は鈍くさいから、永遠に上達しませんです……」

ことり「かよちゃん。そうじゃないよ。多分上達は結果であって、その過程が大事だと思います。かよちゃんがプレイして楽しむことができれば、きっと結果は後についてきます。だって、ゲームなんだもん。楽しめなかったら本末転倒だよっ！」

花陽「さすが伝説の……ミナ、南ことりさん……。はい、そうですねっ！ ウミさん上手に答えられなくてごめんなさい！ でもその友人さんはきっと自然に楽しめる人なんじゃないかなーって……」

※ ※

(BGM : No brand girls)

ことり「ふわー、終わりましたっ！ たくさんしゃべってすっきりしましたー！」

花陽「復活ラジオ第二弾！ 私も大分慣れた気がします！」

ことり「それを放送で言っちゃうところあたりが、ことりとかよちゃんらしいかもしれません……」

花陽「はい……。ことりちゃん」

ことり「うんうん」

花陽「私とことりちゃん。いいコンビなんだね」

ことり「な、なんですってー！ (///) シュポーン」

花陽「そこまで照れられると、こっちも恥ずかしくなっちゃいます (///)。……ことりちゃんが走れば、私が立ち止まる。私が走れば、ことりちゃんが立ち止まる。どちらかが立ち止まれば、もう一方も立ち止まる。そんな関係に不思議になっているような気がします」

ことり「私もかよちゃんも、そんなに普段は前に出るほうじゃないから、かも。前はことりも何とか面白くしなきゃってやってたけど……」

花陽「オフレコ話がどんどん……。と、とりあえず、ことりちゃん、時間が来ちゃいました！ 前と同じくすべて演出ってことにしておきましょう！」

ことり「うんうん！ そうしましょう！ 真実はひとつ！ 名探偵ことりと！」

花陽「一文字しかあってないよお！？ えーっと、パナヨロ！ こと、小泉花陽がお送りしました！」

ことり「次回はもっとかよちゃんと、いちゃいちゃしたい！」

花陽「ええええええ！ (///)」

ことり「ミナリンスキーさんって呼んで欲しい♡」

花陽「いままでの（ピー）音の労力、返してええええ！」

ことり・花陽「最後まで、ありがとうございました！」

(了)